

企画展「役者に首ったけ！～芝居絵を楽しむツボ～」
2011年3月5日（土）～4月17日（日）
たばこと塩の博物館（東京・渋谷公園通り）で開催



浮世絵を通してみる歌舞伎。『ツボ』をつかめば役者の素顔や裏事情がみえてくる！

たばこと塩の博物館（東京・渋谷公園通り）では、2011年3月5日（土）から4月17日（日）まで、企画展「役者に首ったけ！～芝居絵を楽しむツボ～」を開催します。

歌舞伎が人気を博した江戸時代、アイドル的存在であった役者の動向は人々の話題的でした。浮世絵には、役者の舞台姿だけでなく、楽屋のようすや素顔まで描かれ、絵草紙屋で売れ筋の人気商品でした。また、役者が描かれた浮世絵には、団扇絵やおもちゃ絵など、実際に使って楽しむものもあり、歌舞伎が人々にとって身近な存在であったことがうかがえます。

本展では、役者が描かれた芝居絵や、おもちゃ絵、団扇絵など約90点を展示します。歌舞伎の名場面はもちろん、舞台裏のようすや舞台を離れた役者の素顔、当時の人々の芝居絵の楽しみ方も紹介します。さらに、当時歌舞伎の中心地であった江戸と上方（京・大阪）間を行き来して公演した役者の事情や、興行のスポンサーについてなど裏事情にも迫ります。また今回は、展示を3つのコーナーで構成し、作品を見る際のヒントになるいくつかの『見方のツボ』を用意しました。作品を『ツボ』と一緒にご覧いただき、江戸の人々が夢中になった役者たちの魅力をより身近に感じていただく趣向です。

- ◆ 第一部 役者・オン・ステージ：役者の見せ場は舞台姿。描かれた名場面を多数紹介。
- ◆ 第二部 役者上ル下ル、地方二出ル：江戸・上方それぞれで醸成された歌舞伎文化。浮世絵にも表れた違いを紹介。
- ◆ 第三部 舞台がはねても首ったけ：楽屋や普段の姿など、舞台を離れてもファンを魅了した役者の姿を紹介するほか、団扇絵やおもちゃ絵など実用品や楽しい浮世絵も紹介。

〈詳細は別紙1参照〉

〈展示関連の催し〉 展示関連講演会・特別映画上映会などを多数予定しています 〈詳細は別紙2参照〉

企画展「役者に首ったけ！～芝居絵を楽しむツボ～」開催概要

名 称 役者に首ったけ！～芝居絵を楽しむツボ～
 （ヤクシャニクビツケ！ ～シバイエヲタノシムツボ～）

会 期 2011年3月5日（土）～4月17日（日）

会 場 たばこと塩の博物館 4階特別展示室

住 所 東京都渋谷区神南 1-16-8（渋谷駅から徒歩10分。公園通り）

主 催 たばこと塩の博物館

入館料 大人・大学生 100円（50円） 小・中・高校生 50円（20円）
 ※（ ）内は20名以上の団体料金 ※満70歳以上は入館料無料（要証明書）

休館日 月曜日（ただし、3/21は開館）、3/22（火）



①
東洲斎写楽 寛政6年（1794）
「松本幸四郎 肴屋五郎兵衛」

お問い合わせ先：たばこと塩の博物館 広報担当：褰地（ほろち）由美子

E-mail: horochi@tsmuseum.jp

〒150-0041 東京都渋谷区神南 1-16-8

TEL: (03) 3476-2041 FAX: (03) 3476-5692

<http://www.jti.co.jp/Culture/museum/WelcomeJ.html>

ご質問、画像データのご希望などございましたら、お気軽に広報担当・褰地までご連絡ください。



歌川豊国「京鹿子娘道成寺」文化 13 年（1816）



第一部をより楽しむために用意した〈ツボ〉

〈ツボ 1：イケメンを探せ〉江戸時代のイケメン、イケメン扮する美女を評判とともに紹介します。

〈ツボ 2：ひしめき合う版元たち〉芝居絵は絵草紙屋にとって主力商品でした。版元は絵師の確保に奔走し、さまざまな版元から重複して多数の芝居絵が売り出されました。複数の版元から出版された作品を比較しながら紹介。

〈ツボ 3：絵師だってライバルです〉絵師も役者と同じように腕を競っていました。同じ芝居の同じ場面でも絵師によって描き方が違います。その違いを作品で紹介します。

〈ツボ 4：役者も人ですから・・・喧嘩もします〉不仲になった役者が和解するとさっそく浮世絵に描かれました。浮世絵にはニュース性もあったことが分かる作品を紹介します。

歌川豊国「此狂言ハ来春相わかり申候」文政 5 年（1822）

仲違いした七代目市川團十郎と三代目尾上菊五郎が和解し、共演したようすを描いた作品（ツボ 4）。

第二部：役者上ル下ル、地方ニ出ル・・・

当時の歌舞伎の中心地『江戸』『上方』それぞれで醸成された歌舞伎文化。浮世絵にも表れた違いを紹介します

第二部は、こんなポイントでも楽しめる！

〈ツボ 5：豪華キャストでおくる舞台！その背後に金主あり〉

興行の損益は莫大なため、金主（きんしゅ）とよばれる財力のあるスポンサーが出資し、人気役者を共演させました。豪華競演のようすを描いた作品とともに金主の存在を紹介します。

〈ツボ 6：懐具合と相談します〉

大坂では、広い購買層に應えるため、一つの作品に対して、高価な絵の具やぼかしを多用した「上摺」と、安価な絵の具で色数も少ない「並摺」の 2 パターンが用意されました。両者の違いを比較してみます。



歌川国員「長者艦（つりぶね）」安政 4 年（1857）

金色を多用した上摺の作品（ツボ 6）。

第三部：舞台がはねても首ったけ・・・楽屋や普段の姿など、舞台を離れてもファンを魅了した役者たちの姿を紹介します。あわせて、団扇絵やおもちゃ絵など実用的な楽しい浮世絵も展示します。



歌川国芳「独息子に嫁八人」

嘉永 2 年（1849）

今と変わらず、舞台を離れてもファンは役者に夢中であることがうかがえる作品。

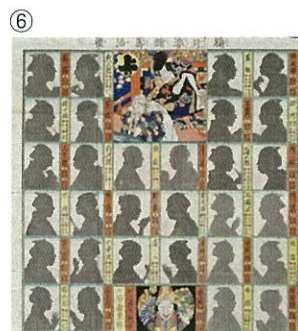
第三部のツボは・・・

〈ツボ 7：役者が着ればダジャレもオシャレ〉

役者が好んで舞台上で用いた衣装や柄は、当時の人々に愛用されました。浮世絵に描かれた意匠や、役者の考案したオリジナルデザインについても紹介します。

〈ツボ 8：伊達に「たばこ」を名乗っちゃいません〉

七代目団十郎遺愛のたばこ盆や、舞台用のきせるなどを展示。描かれた喫煙具も合わせて紹介します。



朝霞楼芳幾

「朧月姿絵寿語禄」

慶応 3 年（1867）

役者の影法師を双六のマス目にしてのおもちゃ絵。

七代目団十郎遺愛の舞台用たばこ入れ（ツボ 8）



画像データの用意がごさいます。ご掲載いただけるようでしたら、図版の番号（①～⑦）を広報担当までご連絡いただければ幸いです。よろしく願いいたします。
広報担当：褰地（ほろち） 03-3476-2041 e-mail: horochi@tsmuseum.jp

【展示関連イベント】

〈講演会〉 ※当日先着順で整理券を配布します。

3月6日(日)

「役者に首ったけ展を楽しむツボ」 講師：西田亜未（当館学芸員）

3月13日(日)

「芝居絵から江戸の歌舞伎に親しむツボ」 講師：石橋健一郎（歌舞伎研究家）

3月19日(土)

「役者おっかけのツボ」 講師：森山悦乃（平木浮世絵美術館学芸員）

4月3日(日)

「江戸川柳で読み解く歌舞伎のツボ」 講師：谷田有史（当館主任学芸員）

4月9日(土)

「役者絵の制作・流通のツボ」

講師：藤澤茜（学習院大学非常勤講師・国際浮世絵学会常任理事）

〈たばこにちなむ落語会〉 ※当日先着順で整理券を配布します。

3月20日(日)

口演：桂歌助 講演：新藤茂（浮世絵研究家）

※講演会と落語会は、いずれも14時から1階視聴覚ホールで開催。参加費無料（ただし入館料は必要です）。

定員は、先着80名（いずれも当日10時より整理券を1名様につき1枚配布します）。

〈特別映画上映会〉 ※当日先着順。整理券は配布しません。

「写楽」（1995年制作 上映時間：138分）

企画総指揮：フランキー堺 監督：篠田正浩 主演：真田広之

上映日：3月5日(土)、12日(土)、21日(月・祝)、26日(土)、27日(日)

4月2日(土)、10日(日)、16日(土)、17日(日)

※特別映画上映会は、各日とも13時30分から1階視聴覚ホールで開催。

参加費無料（ただし入館料は必要です）。定員80名（当日先着順）。